



はくろ
白露（7日）… そろそろ秋の空気に入れ替わります …

朝、子どもたちを迎える30分だけでも汗だくになる残暑の日々です。それでも、見上げる青空の高いところに白い刷毛でシュッと掃いたような「すじ雲」を見つけて、季節が秋に移り変わっていく気配を感じました。自然を感じ取る窓口は、あちこちにたくさんあります。

<玄鳥去 つばめさる 9月17日～21日>

白露の末候は「玄鳥去」です。4月初め、清明の初候「玄鳥至」の頃、東南アジアから日本に渡って来たツバメが、子育てを終えて帰っていく時期だそうです。昨年までは、幼稚園近くのビルの軒先でもツバメの子育ての様子は見られましたが、南へ帰るツバメの様子を見たことがある方は少ないのではないのでしょうか？

ところで、ようやく秋の気配を実感するようになり、ブドウも色付き始めています。年長児はその味に期待をしつつ、ヒマワリなどに続いて絵を描く活動も楽しんでいます。

<ツバメのおもしろい習性>

ツバメの親はヒナを巣に残して、餌を探して飛び回ります。虫をくわえて巣に戻ると、ヒナは黄色く大きな口を開けて餌をせがみます。その黄色は、親が餌をやる行動の本能を刺激する色なのだそうです。おもしろいですね。また、用を足すときには、上手にお尻を巣の外側に向けて巣を汚さないようにします。賢い生活習慣が身に付いていますね。

<感染予防策を講じたランチタイム>

生活習慣と言えば、子どもたちは手洗いや消毒などを丁寧にできるようになってきています。お茶パーティーやおやつ弁当などでシミュレーションを重ねて、改善を繰り返した結果、年少児も、先生たちがパーティーなどを準備する間は静かに待ち、弁当箱を出したり、袋をしまったりする一連の手順を覚え、落ち着いて食べることができるようになってきました。20～25分程度で食べ終わるようにしています。

また、1学期から、多くの保護者の方々から「何かお手伝いをしましょうか」と申し出ていただいています。保護者の皆さんの温かい気持ちと支えてもらっていることをうれしく、そして心強く思いました。お陰様で今のところ教職員で対応できています。ご心配いただき、本当にありがとうございました。

<水道の自動水栓化>

その他の感染予防対策も順次進めています。先週までに保育室とトイレの水道の自動水栓化の第一次工事が終わりました。保育室はお湯も出る蛇口は一つ残して、他の3つは自動水栓にしました。2階のトイレの半分と3階トイレの水道は全て自動水栓となりました。有り難いことです。

手動の水栓では、手を洗い終わった後、手のひらで水を汲んで蛇口にかけるという指導もしています。ぜひご家庭でも習慣付けてほしい気配りです。引き続き、園でも家庭でも感染予防対策を確実に行っていきましょう。



おいしそうなブドウも描いてみたい対象に



A2版の書類ケースと特大ブックエンドを組み合わせたパーティーション



机やパーティーションの置き方や座る位置も何度も試して、より万全に



手を触れずに水が出る自動水栓に交換